

来年度（昭和51年度）学会財政の見通しについて

会計委員会

来年度の学会財政は、本年度（昭和50年度）の会費外収入の予想外の増収もあって、ほぼ順調に経過する見通しである。

当会会の性格から財政の確立には次の4つの方法がある。(a) 会費の値上げ。(b) 図書頒布などの事業収入を計る。(c) 事務費・通信費・会議費などの経常経費の節減を計る。(d) 定期刊行物の減頁とか総会・大会規模の縮小など事業の縮小を計る。

会計委員会では以上の4点をふまえて原案作成のため数回の委員会を開催し十分討議を行なって来た。幸い本年度刊行した気象百年史および学術用語集気象学編その他の予想外の増収もあって以下述べる予算原案が出来上った。なおこれは本年5月の総会に提示される予算原案の主な科目についての概略で、昨年10月の全国理事会および本年2月23日の常任理事会で審議・了承されたものの抜粋である。

1. 会費収入 (2,054万円)

2月5日現在の会員数を基礎とした会費収入は上記のとおりで、これは本年度より約60万円の減少となる。すなわち通常会員は増加しているが官公庁の予算節減に伴う団体会員の減少が主因である。

参考までに昭和51年2月5日現在の会員数、()内は50年4月1日に対する増減、は次のとおりである。なお学生会員の減少は主に卒業に伴うA・B会員への変更による。

A: 1,773名 (+105名), B: 1,006 (+34), 学生: 118 (-40), 外国在住: 87 (-25), 団体: 420 (-96).
賛助: 32 (+2).

2. 事業収入 (1,173万円)

本年度の気象百年史の予想外の収入があったが来年度はこれがなくなる。またページチャージ、別刷代などは本年度と同額を見込んでいる。なお気象集誌のページチャージは来年度から算出方法が若干変更になり最初の1頁からページ当り3,000円となる。また天気は4月号から広告を掲載する予定である。

3. 文部省助成金 (112万円)

気象集誌に対して補助されるもので決定額どおり計上した。

4. 気象集誌・天気の印刷・編集費

周知のように当学会は2種類の機関紙を定期刊行しているが、この支出は1,520万円強である。この額は会費収入の75%で団体・賛助会員を除いた通常会員の会費1,490万円ではまかないきれない額である。

印刷費は関係者および印刷会社の協力によって本年度より値下げまたは据置きとなった。また天気編集費は、内容の充実と担当委員の労力軽減のため編集アシスタント制度を採用することになったので、必要経費約35万を増額した。

5. 発送・通信費 (542万円)

郵便料の改定によって、本年度実績より一般通信費2.5倍、定期刊行物の郵送料60%増とした。なお定期刊行物の発送事務費は据置とした。

6. 会議費 (83万円)

すべての会議費は据置とした。

7. 学会費・藤原賞

総会席上における付則審議の結果にもよるが、一応両者とも2万円増額し7万円とした。

8. 奨励金・支部交付金

据置とした。したがって来年度の各支部への交付金算出方法は本年度と同じとなる。

9. 事務費 (627万円)

事務の合理化・簡素化については庶務・会計委員会で検討中であるが、本年度の10%増を計上した。なお人件費は学会事務職員給与規定によりベースアップは国家公務員に準拠することになっているので、人事院勧告によってほぼ自動的に決まる。

10. 旅費 (12万円)

本年度より4万円増加した。これは秋季大会への関係役員・事務職員の出席のための交通費、各賞委員会役員の商品会出席交通費が主なものである。

定款によって通常会費は前納制(52年1月から12月の会費は51年末までに納入する)である。したがって52年1月からの会費額は本年5月の定期大会で可決しなければならない。各科目ごとに述べたように来年度は年度内の収支はほぼバランスする見込である。

(39ページにつづく)

- 特性と梅雨, 昭和49年度全国長期予報技術検討会資料, 37-49.
- 久保木光熙, 1968: 中北部日本の夏の到来の総観過程, 昭和42年度全国長期予報技術検討会資料, 43-66.
- 村上多喜雄, 1958: 初夏のチベット高原附近における上層風の変化, 気象集誌, 36, 239-247.
- T. Murakami, 1974: Steady and Transient Waves Excited by Diabatic Heat Sources During the Summer Monsoon, J. Atmos. Sci., 31 340-357.
- 佐藤和敏, 1968: 500 mb 平均図による梅雨明けの解析, 昭和42年度全国長期予報技術検討会資料, 87-113.
- K. Suda and T. Asakura, 1955: A Study on the Unusual "Baiu" Season in 1954 by Means of Northern Hemisphere Upper Air Mean Charts, J. Meteor. Soc. Japan, 23, 233-244.
- 杉本 豊・山崎 学, 1975: 亜熱帯高気圧からみた1973, 74両年の比較, 昭和49年度全国長期予報技術検討会資料, 30-37.

(40頁からつづく)

まだまだ概算の段階だが、本年度末における繰越金は前納会費のほか約200万円前後が見込めるので(この額は会費のほぼ10%に当る)、52年度は物価その他が若干上昇しても何とかまかなえる見込である。

したがって52年1月からの会費(51年末に前納する会費)は据置が可能である。

なお学会財政・来年度の見通しなどに関してご意見のある会員は下記会計担当役員にご連絡下さい。

担当理事

- 野本真一, 東京都千代田区 1-3-4, 気象庁予報課
川村 清, 東京都杉並区高円寺北4-35-8, 気象研究所

委員

- 菊地恒之, 気象庁業務課
小林正治, 気象研究所
西村浩三, 気象庁予報課